

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

| | | | |
|-------|-----------------|------|-------------|
| 作成年月日 | 平成 27 年 8 月 1 日 | 担当部署 | 産業観光部 観光振興課 |
|-------|-----------------|------|-------------|

※以下は平成 27 年 3 月 31 日現在の内容です。

2 法人等の概要

| | | | | | |
|-------|--|-----|------------|-------|-------|
| 法人等名称 | J-ホールディングス株式会社 | | | | |
| 代表者名 | 代表取締役 伊藤 利彦 | | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 | | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他 | | | | |
| 所在地 | 新潟県上越市西本町四丁目 18 番 12 号 | | | | |
| 設立年月日 | 平成 25 年 9 月 3 日 | 資本金 | 100,000 千円 | 市出資割合 | 80.2% |
| 設立目的 | <p>次の事業を営む会社の株式又は持分を所有することにより、当該会社の事業活動を支配又は管理すること及びこれに付帯又は関連する事業を営むことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 温浴施設、宿泊施設、スキー場施設その他附帯施設の経営及び管理運営に関する業務 2 物品、特産品等の製造及び販売並びに委託販売に関する業務 3 各種イベント、事業及び物品の企画立案、広告宣伝並びに調査研究に関する業務 4 不動産の売買、賃貸借管理及びその仲介に関する業務 5 保険代理業 6 旅行業・旅行代理店業 7 上越市からの受託事業に関する業務 8 その他付帯関連する一切の業務 | | | | |

3 組織

(単位：人)

| | | 理事・ 取締役 | 監事・ 監査役 | 計 | 内訳 | | | |
|----|--------|------------|------------|---|------|-----|-----|-----|
| | | | | | プロパー | 市派遣 | 市兼務 | その他 |
| 役員 | 常勤 | 1 | | 1 | 1 | | | |
| | 非常勤 | 6 | 2 | 8 | | | | 8 |
| | 計 | 7 | 2 | 9 | 1 | | | 8 |
| 職員 | 正職員 | — | — | 6 | 6 | | | |
| | 臨時職員 | — | — | | | | | |
| | パート職員等 | — | — | | | | | |
| | 計 | — | — | 6 | 6 | | | |

4 主な事業

| |
|---|
| (1) 事業会社 (7 社) への経営管理及び経営指導 |
| (2) 上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店 (えちご食処 7つのおもてなし) の運営 |
| (3) |

5 事業実績（概要）

○第2期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）の事業実績

- ・第2期の営業収益（売上高）は、17,223千円であり、その内訳は、市からの観光施設経営改善事業委託料及び平成27年3月から新たに新店した上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店の売上金であります。
- ・営業費用は、一般管理費・販売費として29,806千円を計上しており、主な内訳としては人件費が18,029千円で、上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店の食器等の消耗品支出が1,477千円となっております。
- ・当期純利益は、△14,966千円となり、第2期末の欠損金は27,831千円となりました。

- ・第2期におけるJーホールディングスグループの目標は、グループ戦略の第2段階として「全事業会社7社の黒字の目途をつける」ことであり、そのために、①スタッフ活性化によるサービス体制のレベルアップ、②営業力アップ、③会社の魅力アップに関し、重点的に取組を進めたほか、上越妙高駅開業に合わせて、④上越妙高駅内に軽飲食店を出店しました。

| 取組項目 | 主な取組内容 |
|--------------------------|---|
| ①スタッフ活性化によるサービス体制のレベルアップ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員発言型経営及び7社間の社員交流の推進 ・ スタッフ研修、調理担当者研修の支援 |
| ②営業力のアップ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊5社共同商品（味力の宿）の活用 ・ 諸会員組織やイベントとの連携 ・ 7社共同チラシ及び共同パンフの制作・配布 |
| ③会社の魅力アップ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の新たな魅力と個性の発掘 |
| ④上越妙高駅出店 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年3月14日に上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店を開店（出店目的である各社の認知度アップに効果） |

※これまでの経緯

- ・平成25年9月に、市が資本金を50%以上出資している会社法法人7社（㈱キューピットバレイ、柿崎総合開発㈱、㈱大潟地域活性化センター、㈱ゆったりの郷、黒倉ふるさと振興㈱、三和振興㈱、㈱ゆめ企画名立）を経営統合し、その7社を事業会社とする持株会社（Jーホールディングス㈱）を設立

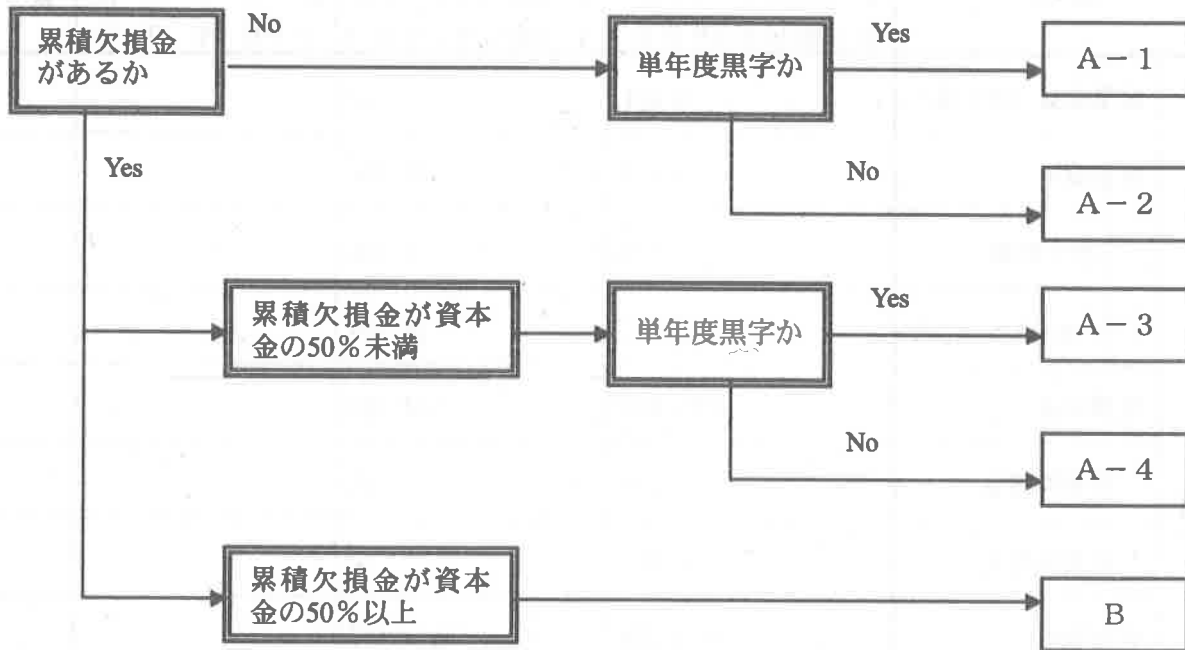
6 財務状況

(単位：千円)

| 項 目 | | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 年度 | 備 考 |
|-------|-----------|---|---|--------------------------|-----|
| | | 自 平成 25 年 9 月 3 日 至 平成 26 年 3 月 31 日 | 自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日 | 自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日 | |
| 損益計算書 | 営業収益（売上高） | 8,421 | 17,223 | | |
| | 営業費用 | 19,777 | 31,991 | | |
| | 売上原価 | 0 | 2,185 | | |
| | 一般管理費・販売費 | 19,777 | 29,806 | | |
| | 営業利益 | △11,356 | △14,768 | | |
| | 営業外利益 | 518 | 95 | | |
| | 営業外損失 | 1,881 | 0 | | |
| | 経常利益 | △12,719 | △14,673 | | |
| | 特別利益 | 0 | 0 | | |
| | 特別損失 | 0 | 0 | | |
| | 税引前当期利益 | △12,719 | △14,673 | | |
| | 法人税等 | 146 | 293 | | |
| | 当期利益 | △12,865 | △14,966 | | |
| 項 目 | | 平成 26 年 3 月 31 日現在 | 平成 27 年 3 月 31 日現在 | 平成 年 月 日現在 | 備 考 |
| 貸借対照表 | 資 産 | 397,005 | 395,966 | | |
| | 負 債 | 2,684 | 16,610 | | |
| | 純資産 | 394,321 | 379,356 | | |
| | 資本金 | 100,000 | 100,000 | | |
| | 剰余金・欠損金 | △12,865 | △27,831 | | |
| その他 | 307,186 | 307,187 | | | |

7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



| | |
|----|-----|
| 評価 | A-4 |
|----|-----|

| 評価基準 | | 備考 |
|------|---------------------------|---------------------------|
| A-1 | 累積欠損金がなく、単年度黒字の場合 | 引き続き経営努力を行う。 |
| A-2 | 累積欠損金がなく、単年度赤字の場合 | 複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。 |
| A-3 | 累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合 | 経営改善の努力を要する。 |
| A-4 | 累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合 | 経営改善の一層の努力を要する。 |
| B | 累積欠損金が資本金の50%以上の場合 | 事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。 |

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

| |
|----|
| なし |
|----|

8 市の関与の状況

(1) 市の委託額

(単位：千円)

| 内訳 | | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 年度 | 備考 |
|----|--------------|----------|----------|-------|----|
| ① | 観光施設経営改善事業委託 | 8,421 | 12,578 | | |
| ② | | | | | |
| ③ | | | | | |
| ④ | | | | | |
| ⑤ | | | | | |
| 計 | | 8,421 | 12,578 | | |

(2) 市の財政援助額

(単位：千円)

| 内訳 | | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 年度 | 備考 |
|----|----------|----------|----------|-------|----|
| ① | 補助金（助成金） | | | | |
| ② | 貸付金 | | | | |
| ③ | 損失補償 | | | | |
| ④ | 債務保証 | | | | |
| ⑤ | その他（出資金） | 92,000 | | | |
| 計 | | 92,000 | 0 | | |

9 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

・営業収益（売上高）は 49,300 千円、経常利益△13,900 千円を目標とし、次の課題に取り組み、各社黒字体制の基盤を確保する。

- (1) スタッフ並びに経営の両面にわたる品質アップ
- (2) 営業の拡大（①対象マーケットの拡大と営業手法開発、②告知の充実、③個性と魅力を付加したサービスの開発、④個社別戦略の支援とグループカアアップ）
- (3) 上越妙高駅 SAKURA プラザ内の軽飲食店「7つのおもてなし」の活用

※上記の営業収益（売上高）の目標については、グループ会社からの負担金は計上しておらず、各社の経営規模及び J-ホールディングス(株)からのサービス受益状況などを勘案し、全体で 10,000 千円の負担を各社から求める予定

(2) 中長期経営計画

なし

出資法人等経営状況一覧（J-ホールディングスグループ）

1 年度経営・財務状況

（単位：千円）

| 法人名 | 決算期 | 年度 | 売上高 | 営業費用 | 営業利益 | 当期純利益 | 資本金 | 資本剰余金等 | 剰余金欠損金 |
|----------------|-----|-----|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|----------|
| J-ホールディングス(株) | 3月 | H25 | 8,421 | 19,777 | △11,356 | △12,865 | 100,000 | 307,186 | △12,865 |
| | | H26 | 17,223 | 31,991 | △14,768 | △14,966 | 100,000 | 307,187 | △27,831 |
| (株)キューピットバレイ | 4月 | H25 | 554,081 | 575,766 | △21,685 | △48,891 | 100,000 | 54,319 | △78,527 |
| | | H26 | 527,547 | 554,983 | △27,436 | △24,246 | 100,000 | 54,319 | △102,774 |
| 柿崎総合開発(株) | 3月 | H25 | 174,163 | 186,994 | △12,831 | △11,926 | 50,000 | 0 | 54,676 |
| | | H26 | 155,813 | 154,203 | 1,609 | 2,856 | 50,000 | 0 | 57,532 |
| (株)大潟地域活性化センター | 3月 | H25 | 116,803 | 120,417 | △3,614 | △3,359 | 10,000 | 0 | △7,320 |
| | | H26 | 117,240 | 118,525 | △1,286 | 16 | 10,000 | 0 | △7,304 |
| (株)ゆったりの郷 | 3月 | H25 | 161,314 | 160,492 | 821 | 868 | 25,000 | 0 | 7,486 |
| | | H26 | 161,603 | 161,253 | 349 | 555 | 25,000 | 0 | 8,042 |
| 黒倉ふるさと振興(株) | 3月 | H25 | 74,654 | 83,456 | △8,801 | △4,639 | 20,000 | 0 | 12,320 |
| | | H26 | 80,022 | 80,291 | △269 | 294 | 20,000 | 0 | 12,615 |
| 三和振興(株) | 1月 | H25 | 108,524 | 115,019 | △6,495 | △6,355 | 61,300 | 0 | △54,597 |
| | | H26 | 93,271 | 105,227 | △11,957 | △3,932 | 61,300 | 0 | △58,529 |
| (株)ゆめ企画名立 | 9月 | H25 | 624,650 | 622,995 | 1,655 | △9,831 | 70,600 | 0 | △54,676 |
| | | H26 | 589,173 | 595,785 | △6,613 | △8,310 | 70,600 | 0 | △64,860 |
| 事業会社7社合計 | — | H25 | 1,814,189 | 1,865,139 | △50,950 | △84,133 | 336,900 | 54,319 | △120,638 |
| | | H26 | 1,724,669 | 1,770,267 | △45,603 | △32,767 | 336,900 | 54,319 | △155,278 |

2 7社の経営状況の概要

| 法人名 | H26年度決算期 主な要因及び特記事項 |
|----------------|---|
| (株)キューピットバレイ | <ul style="list-style-type: none"> ・5期連続で単年度赤字を計上 ・冬期間の週末の天候不良や、ツアーバス代高騰により関東・関西からの団体ツアーが減少し、スキー場全体の入込客・売上高ともに減少し、赤字を計上 |
| 柿崎総合開発(株) | <ul style="list-style-type: none"> ・単年度黒字を計上 ・宿泊料金（H26.4月）の値上げに伴い、宿泊利用が減少し、売上高が減少したものの、退職者不補充等の経費縮減を図り、黒字を計上 |
| (株)大潟地域活性化センター | <ul style="list-style-type: none"> ・単年度黒字を計上 ・宴会利用等の増加により売上高を微増させるとともに、売上原価や消耗品等の経費を縮減し、黒字を計上 |
| (株)ゆったりの郷 | <ul style="list-style-type: none"> ・10期連続で単年度黒字を計上 ・売上高は微増したものの、光熱水費等の経費が増加し、黒字幅は減少 |
| 黒倉ふるさと振興(株) | <ul style="list-style-type: none"> ・単年度黒字を計上 ・宿泊・入浴利用の増加により、売上高を増加させるとともに、消耗品等の経費を縮減し、黒字を計上 |
| 三和振興(株) | <ul style="list-style-type: none"> ・3期連続で単年度赤字を計上 ・三和米本陣浴室改修工事による一部休館及び営業不足により、売上高が減少し、単年度赤字を計上（参考：市からの浴室改修工事補填金 7,436千円） |
| (株)ゆめ企画名立 | <ul style="list-style-type: none"> ・2期連続で単年度赤字を計上 ・消費税増税の影響や団体バスの距離制限等により売上高が減少し、赤字を計上 |

(付属書類)

報告事項

- (1) 第2期(自平成26年4月1日至平成27年3月31日) 事業報告、計算書類並びに監査役の計算書類監査結果報告の件

事業報告

(平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで)

I. 当社の状況

金融政策を柱とした日本経済のデフレ脱却策の浸透が喧伝される中、当社ならびに当社グループ7社をめぐる環境にあっては、引き続き、高齢化の進展による既存客減少、消費税増税の影響も加わった節約志向の強まり、さらには食材や光熱費の大幅値上げなど厳しい状況が続いております。

1. 当社の活動

当社の主業務は、グループ会社への経営指導を通じて、グループ会社の経営改善を図ることです。具体的には、会社の原点(地元の想い)とスタッフ重視の2点に立脚し、経営改善を推進してまいりました。

(1) 当社グループの方針と戦略の堅持

当期も、前期に策定しました、方針、戦略を、第2期を通じて、堅持してまいりました。

(ご参考)

①当社グループの方針

A. 各社は、独自性を発揮しながら自立する。そのために持株会社の機能を活用する。

B. 各社と当社グループは、上越市の魅力を高めるための観光資産となる。

②当社グループの戦略

第1段階：持株会社設立前後までとして、各社が「ありたい姿」を策定。

第2段階：平成25年9月から同27年3月末までとし、各社黒字の目途をつける。

第3段階：平成27年4月以降とし、各社黒字を実現する。

(2) 当社の活動実績

第2期は、グループ戦略の第2段階の最終期にあたります。すなわち各社黒字の目途をつけることであり、その内容は、スタッフ活性化によるサービス体制のレベルアップ、営業力アップ、各社の魅力アップを図ることでありました。

当社は、各社個別課題に取り組むとともに、上記のグループ共通課題にたいして下記のように取り組んでまいりました。

① スタッフ活性化によるサービス体制のレベルアップ

7社のスタッフが元気に働くことを目的に、主として、全員発言型経営、7社間の社員交流を推進しました。

このうち、全員発言型経営につきましては、管理者抜きでスタッフのみで行うスタッフ・ミーティングを年度央より殆どの会社で導入させ、実施しました。その結果、お客様からの苦言の激減やスタッフによる創意工夫などの効果があり、マネジメントとスタッフの負担軽減にもつながりました。業績の向上にも大きく寄与したと推定されます。また、7社相互の訪問や他社会議への出席を通じて、スタッフ同士の交流を行い、業務面で互いに研鑽を積み上げることができました。さらに、一部では、代表者の他社への派遣を行い、会社ぐるみの交流が実現、互いに業務補完するなどの効果がありました。

加えて、スタッフ研修ならびに調理担当者研修を支援しました。さらには、毎月2回の経営会議では、お客様からのご意見を取り上げ、7社での認識の共有や解決・対応策作りに役立ててきました。

② 営業力のアップ

以下の実績をあげることができました。

- a. 宿泊5社共同商品（味力の宿）の活用。
- b. 諸会員組織やイベントなどとの連携。
 - ・金融機関、交通安全協会、交通安全運転管理者協会、シルバー人材センター、老人会(一部)、タクシー会社、民間企業等と業務提携。
 - ・くびきのマラソン、トレイルランナーズ、灯の回廊、北陸新幹線開通イベントなどに協力、協賛。
- c. 告知拡大。
 - ・7社共同チラシ配布（首都圏などに配布）。
 - ・7社共同パンフの制作と配布。16頁にわたり、各社、料理、お土

産、各地名所を紹介。英文も記載。

d. 応援隊の活用。

全社において地元を中心に応援隊ないし類似の支援組織が発足。

一部では、応援隊によるパーティ・イベントを実施。

e. その他。

・各社のイベントの促進と支援。

・各社営業会議にも出席、アドバイスなどを実施。

・営業プラン管理シートを紹介。各社では営業計画と管理に活用。

③ 各社の魅力アップ。

観光という観点から、各社について、中長期視点に立ち、それぞれの新たな魅力と個性の発掘に努めました。その結果、少なからず、未開発の観光資源を見つけ出すことができ、今後の業務推進に役立ててまいります。

④ 上越妙高駅出店

平成 27 年 3 月 14 日に北陸新幹線開通、当社も上越妙高駅内に軽飲食店舗「えちご食処 7つのおもてなし」(通称 7つ屋)を開店しました。今期は 18 日間の営業でしたが、開通というイベントとも相俟って、ご利用のお客様数は事前予想を大きく上回りました。出店目的の 7 社認知度アップにも相当な効果があったものと思われまます。

以上をふまえて、戦略第 2 段階の目標「全社黒字の目途をつける」に照らして、当期を総括しますと、当期は 4 社黒字（前期は 1 社）、残る 3 社のうち、2 社は外部環境の大きな変化がない限り、来期に黒字化の見込みであります。最後の 1 社につきましては、関係者と協議のうえ、黒字化策を作成し、その実施の可否を関係部署と検討・協議しております。

2. 当社の損益状況

第 2 期決算での売上収入は、17,223 千円(予算比 969 千円増)ですが、売上総利益は、15,038 千円（予算比 1,216 千円未達）となりました。売上では 7つ屋売上が 4,972 千円（予算比 1,972 千円増）でしたが、観光施設経営改善事業委託料は 11,646 千円と予算比 1,955 千円減にとどまりました。

販売費及び一般管理費は、29,806 千円（予算比 570 千円減）ですが、この中には、7つ屋の食器等消耗品支出 1,477 千円を計上しております。営業外利益が 96 千円を加えて、経常損失は 14,673 千円（予算比 551 千円未達）、税引前

損失も 14,966 千円（予算比 844 千円未達）となりました。

当社損益の状況（第2期）

（千円）

| | 第2期実績 当社合計 | 同予算比 | 同前期比 | うち 7つ屋（当期） | 7つ屋（予算比） |
|-------|---------------|--------|--------|---------------|----------|
| 売上 | 17,223 | 969 | 8,283 | 4,972 | 1,972 |
| 売上利益 | 15,038 | △1,216 | 6,098 | 2,787 | 787 |
| 経費 | 29,806 | △570 | △8,147 | 3,035 | 1,035 |
| 営業利益 | △14,768 | △646 | △2,049 | △248 | △248 |
| 経常利益 | △14,673 | △551 | △1,954 | △248 | △248 |
| 当期純利益 | △14,966 | △844 | △2,247 | △248 | △248 |

II. グループ会社の決算状況

各社の直近の決算は下記の通りです。

（千円）

| 会社名 | 売上高 | 当期純利益 | 同左 前期 比増減 | 決算期 |
|----------------|---------|---------|--------------|----------|
| （株）キュービットバレイ | 554,081 | △48,891 | △19,255 | 平成26年4月期 |
| 柿崎総合開発（株） | 155,813 | 2,856 | 14,782 | 平成27年3月期 |
| （株）大潟地域活性化センター | 117,240 | 16 | 3,375 | 平成27年3月期 |
| （株）ゆったりの郷 | 161,603 | 555 | △313 | 平成27年3月期 |
| 黒倉ふるさと振興（株） | 80,022 | 294 | 4,933 | 平成27年3月期 |
| 三和振興（株） | 93,271 | △3,932 | 2,423 | 平成27年1月期 |
| （株）ゆめ企画名立 | 589,173 | △8,310 | 1,521 | 平成26年9月期 |

（注）キュービットバレイの当期純損失には、資産売却損 24,963 千円を含んでいます。

以上

貸借対照表

平成 27年 3月 31日 現在

J-ホールディングス株式会社

(単位：円)

| 資 産 の 部 | 負 債 の 部 |
|---|---|
| 【流動資産】 現金 1,495,011 小口現金 20,000 普通預金 56,952,818 売掛金 358,399 貯蔵品 42,000 未収入金 1,487,735 預け金 1,000,000 仮払消費税等 1,913 未収消費税等 1,213,133 流動資産合計 <u>62,571,009</u> | 【流動負債】 買掛金 5,260,886 未払金 9,989,739 預り金 289,869 未払法人税等 290,000 仮受金 401,880 仮受消費税等 48,371 流動負債合計 <u>16,280,745</u> 【固定負債】 長期未払金 329,448 固定負債合計 <u>329,448</u> 負債合計 <u>16,610,193</u> |
| 【固定資産】 【有形固定資産】 リース資産 313,760 建物 6,298,542 機械装置 10,406,883 工具器具備品 1,188,719 有形固定資産合計 <u>18,207,904</u> 【投資その他資産】 出資金 315,187,224 投資その他資産合計 <u>315,187,224</u> 固定資産合計 <u>333,395,128</u> 資産合計 <u>395,966,137</u> | 純 資 産 の 部 【株主資本】 【資本金】 100,000,000 【資本剰余金】 資本準備金 50,000,000 【その他資本剰余金】 257,187,224 資本剰余金合計 307,187,224 【利益剰余金】 【その他利益剰余金】 繰越利益剰余金 <u>△ 27,831,280</u> その他利益剰余金合計 <u>△ 27,831,280</u> 利益剰余金合計 <u>△ 27,831,280</u> 株主資本合計 <u>379,355,944</u> 純資産合計 <u>379,355,944</u> 負債・純資産合計 <u>395,966,137</u> |

損益計算書

自 平成 26年 4月 1日
至 平成 27年 3月 31日

J-ホールディングス株式会社

(単位：円)

| | | |
|--------------|-----------|------------|
| 【売上高】 | | 17,222,700 |
| 【売上原価】 | | |
| 飲食仕入 | 1,316,334 | |
| 売店商品仕入 | 231,584 | |
| MIJ仕入 | 636,810 | |
| 計 | | 2,184,728 |
| 売上総利益 | | 15,037,972 |
| 【販売費及び一般管理費】 | | 29,806,320 |
| 営業損失 | | 14,768,348 |
| 【営業外収益】 | | |
| 受取利息 | 77,424 | |
| 雑収入 | 18,178 | 95,602 |
| 経常損失 | | 14,672,746 |
| 税引前当期純損失 | | 14,672,746 |
| 法人税等 | | 292,922 |
| 当期純損失 | | 14,965,668 |

販売費及び一般管理費明細書 (単位：円)

| | |
|-------|------------|
| 役員報酬 | 9,230,000 |
| 給与手当 | 6,539,815 |
| 通勤手当 | 221,800 |
| 法定福利費 | 1,966,879 |
| 福利厚生費 | 70,701 |
| 旅費交通費 | 383,184 |
| 通信費 | 403,834 |
| 販売促進費 | 4,630 |
| 発送配達費 | 4,778 |
| 広告宣伝費 | 1,748,824 |
| 接待交際費 | 41,384 |
| 会議費 | 79,774 |
| 燃料費 | 6,475 |
| 水道料 | 30,360 |
| 電気電力料 | 170,436 |
| 租税公課 | 58,250 |
| 新聞図書費 | 63,468 |
| 管理諸費 | 462,448 |
| 支払手数料 | 452,928 |
| 外注費 | 3,882,696 |
| 衛生費 | 8,000 |
| 地代家賃 | 659,236 |
| 賃借料 | 1,059,959 |
| 保険料 | 82,130 |
| 修繕費 | 31,000 |
| 消耗品費 | 1,724,129 |
| 研修費 | 28,748 |
| 減価償却費 | 390,454 |
| 合計 | 29,806,320 |

株主資本等変動計算書

自 平成 26年 4月 1日
至 平成 27年 3月 31日

J-ホールディングス株式会社
(単位：円)

| | | | |
|------------|--------------|--|--------------|
| 【株主資本】 | | | |
| 【資本金】 | 当期首残高及び当期末残高 | | 100,000,000 |
| 【資本剰余金】 | | | |
| 資本準備金 | 当期首残高及び当期末残高 | | 50,000,000 |
| 【その他資本剰余金】 | | | |
| 資本剰余金 | 当期首残高及び当期末残高 | | 257,187,224 |
| 資本剰余金合計 | 当期首残高及び当期末残高 | | 307,187,224 |
| 【利益剰余金】 | | | |
| 【その他利益剰余金】 | | | |
| 繰越利益剰余金 | 当期首残高 | | △ 12,865,612 |
| | 当期変動額 当期純損失 | | △ 14,965,668 |
| | 当期末残高 | | △ 27,831,280 |
| 利益剰余金合計 | 当期首残高 | | △ 12,865,612 |
| | 当期変動額 | | △ 14,965,668 |
| | 当期末残高 | | △ 27,831,280 |
| 株主資本合計 | 当期首残高 | | 394,321,612 |
| | 当期変動額 | | △ 14,965,668 |
| | 当期末残高 | | 379,355,944 |
| 純資産合計 | 当期首残高 | | 394,321,612 |
| | 当期変動額 | | △ 14,965,668 |
| | 当期末残高 | | 379,355,944 |

監査報告書

平成 27 年 5 月 28 日

J-ホールディングス株式会社

監査役 荻谷 賢一

監査役 笹原 茂

私ども監査役は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの平成 26 年度における業務の執行を監査するため、会計帳簿及び重要な決算書類を閲覧し、計算書類について慎重な検討を加え、その他の必要と思われる監査手続きを実施した。

1. 貸借対照表及び損益計算書は、会社の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認める。
2. 株主資本等変動計算書の記載については、指摘すべき事項はない。

以上

報告事項

- (2) 平成 27 年度(自平成 27 年 4 月 1 日至平成 28 年 3 月 31 日) 事業計画及び収支計画の件

平成 27 年度事業計画及び収支計画

I. 事業計画

1. グループ会社の課題への取り組み

平成 27 年度は、グループ戦略第 3 段階の初年度であります。環境は、引き続き、高齢化の進展による既存客減少、節約志向の継続、食材や光熱費の高止まりなど厳しい状況にあります。

その中で、当社は、グループの方針を堅持し、引き続き、会社の原点(地元の想い)とスタッフ重視の 2 点に立脚し、グループ各社の黒字体制の基盤を確保してまいります。そのためには、スタッフ活性化によるサービス体制を盤石なものとし、営業を強力に推進する体制を確立する必要があります。取り組むべき課題は、(1)さらなる品質アップ、(2)営業の拡大、であります。

同時に、解決すべき個社別課題もあり、これらの課題を取り除くことでグループ会社が安心して経営と業務を遂行できる環境を作ってまいります。

(1) さらなる品質アップ

スタッフならびに経営の両面にわたって、品質アップを目指します。

スタッフにつきましては、前期でのスタッフ・ミーティングなどで日常問題の解決がかなり図られ、その過程でスタッフの業務遂行能力(スタッフ力)が大きく向上しております。

そのスタッフ力をさらに増すために、「自身のありたい姿」をふまえて、スタッフ・ミーティングを充実させ、さらなる問題解決能力の向上を図ります。グループ各社としても、業務フローの点検と確認、業務の整理、業務計画の確立、それに、スタッフ研修の充実などにより、スタッフ力向上のための環境整備を行います。

各社の経営につきましても、前期でアップした経営力を土台とし、とくに、今期は、計画力、実行力をさらに一段と向上させてまいります。

(2) 営業の拡大

第 3 段階はいよいよ営業を本格的に展開する期間であります。具体的には、各社において、以下の方策を実行してまいります。

① 対象マーケットの拡大と営業手法開発

営業は、会社の原点(地元の想い)に立脚しつつ、グループならびに個社別に、営業対象マーケットを拡げます。

そのマーケットに対して、マーケット別の営業手法を開発してまいります。

② 告知の充実

マーケット別に効率の良い告知を図ります。ネットや諸媒体の利用であります。また、北陸新幹線開通を機に増えつつある関東圏およびインバウンドに対しても、告知ルートを開発してまいります。

③ 個性と魅力を付加したサービス

各社の個性と魅力を活かして、イベント、心に残る体験などを開発します。

④ 個社別戦略の支援とグループカアップ

個社別の業務支援にあたって、個社会議出席とともに、グループ内の交流などを通じて、個社とグループの業務遂行力をアップしてまいります。

2. 上越妙高駅「7つのおもてなし」の活用

前期に出店した7つ屋は、上越市の玄関口でご来越のお客様を暖かくお迎えするとともに、地元のお客様にもご利用いただけるよう、努めてまいります。7社認知度アップのための看板という役割も担い、当社グループの営業力拡大にも寄与してまいります。

II. 収支計画

平成27年度の売上高は、市からの観光施設経営改善事業委託料約6,300千円(前期比5,345千円減)と7つ屋売上43,000千円など総額49,300千円を見込んでいます。売上原価は、7つ屋15,200千円で、売上利益は34,100千円であります。販売費及び一般管理費につきましては、7つ屋の経費23,000千円と当社本体の経費25,000千円(前期比1,771千円減)の計48,000千円を計上します。

したがって、平成27年度の経常損失は、13,900千円(前期比773千円改善)となりますが、今後、各社からの相応の負担により、本赤字のカバーもしくは赤字幅縮小に努めてまいります。

なお、各社からの負担は、各社の経費規模および当社からのサービス受益状況などを勘案して、当期全体では、10百万円ほどを予定しております。

平成27年度収支計画

(千円)

| | 当社合計 | 当社プロパー | 7つ屋 |
|------------|---------|---------|--------|
| 売上高 | 49,300 | 6,300 | 43,000 |
| 売上総利益 | 34,100 | 6,300 | 27,800 |
| 販売費及び一般管理費 | 48,000 | 25,000 | 23,000 |
| 経常利益 | △13,900 | △18,700 | 4,800 |

(注) 売上高には、グループ会社からの負担分は計上されていません。